

みんなの屋根

テーマ1 景観 隠岐島の屋根のかたちを引き継ぐ

人口あたりの神社の数が日本一の島根県の中でも隠岐諸島は100を超える神社が存在します。

島の景観を引き継ぐ建築のかたちを提案します。

島根県隠岐諸島の神社



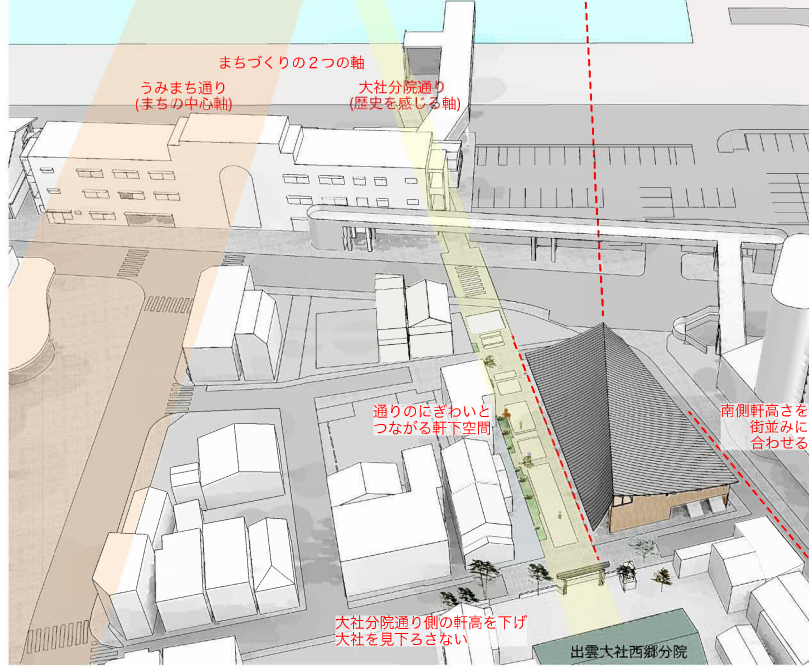
歴史を感じる道でうみと大社をつなぐ

まちづくりの2つの軸のうち、中心軸であるうみまち通りに対して大社分院通りを歴史を感じる軸として位置づけ、2つの軸が響き合うことを目指します。再生される大社分院通り沿いに大きな屋根をかけ、1階に商業スペース2階に交流スペース、フリースペースを配置し、大社分院通りと一体化し、みんなが集まる場所をつくります。

風景から屋根のかたちを導く

敷地周辺の風景から屋根のかたちを導く。大社分院通りに対して軒を下げ道の景観をつくとともに大社を見下ろさないように配慮します。切妻屋根の棟は海と大社をつなぐ軸線に沿い、南側の軒高さは通りの街の高さに合わせています。

うみと大社をつなぐ軸線



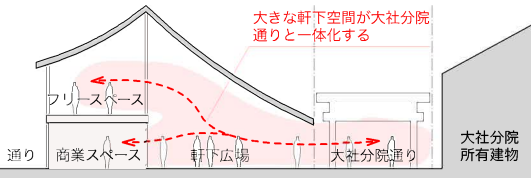
大社分院通りから西をみる

テーマ2 機能・空間 さまざまな活動があつまるみんなの屋根

地区内の公民館としての役割を担う本施設は、商業・交流・フリーの3つのスペースを含んでいます。地元民や観光客や運営者など多様な人々のさまざまな活動が一体的な空間の中で行われます。大きな屋根はさまざまな活動を交わらせ、みちへつながる場所となり、地域のコミュニティを醸成します。

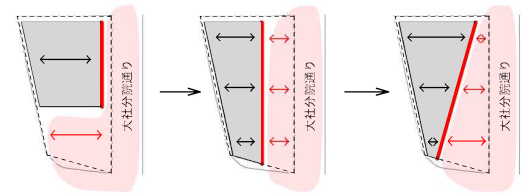
1階と2階を吹抜で一体化しみちへつなげる軒下広場

1階の商業スペースと2階の交流スペース、フリースペースを軒下広場が大きな吹抜け空間として断面的に一体化します。大社分院通りに対して軒を下げ、大屋根の下のまとまりを感じながら通りと連続する断面計画としています。



「幅の変化」と「みちと建物の接する長さ」をつくる三角形

敷地を斜めに横断する向かう軸を設定します。建物本体と軒下広場を三角形として、幅の変化をつくりながらみちと建物が接する長さを最大化します。敷地全体にかけられた大屋根は建物本体と軒下広場を一体化し、通りににぎわいをつなげます。



□ 正方形
通りと接する長さ X
幅の変化 Δ

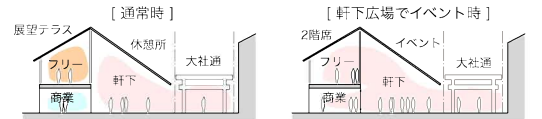
▭ 長方形
通りと接する長さ ○
幅の変化 X

△ 三角形
通りと接する長さ ○
幅の変化 ○

町民とのワークショップで使い方を考える

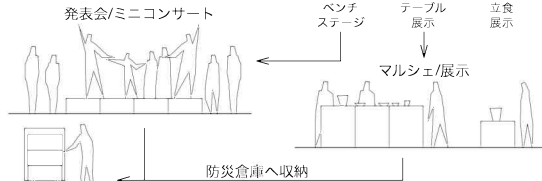
ワークショップによって様々な町民の意見を取り入れてよりよい施設づくりを目指しつつ、設計プロセスを共有することで、交流施設に対する興味や愛着を持ってもらう機会を作ります。

普段は参加しなそうな人々にも興味を持ってもらえるワークショップを企画します。島外の人のためにZoomでの開催・中学生のためにマイクラフト等のゲームWS・小学生のために建物にお絵描きWS・2-30代のためにものづくりWSな、子育て世代のために子供の玩具を考えるWSなど、多様な人々を巻き込む企画を考えます。



多目的家具でいろいろな活動の場をつくる

軒下広場や建物内に多目的で使える高さの異なる屋内外兼用の家具を配置します。休憩所やマルシェ、ミニコンサートなど様々な目的に応じてレイアウトすることができます。



避難場所を日常的に使う

1Fの階段下倉庫と2Fの防災備蓄倉庫には多目的家具の他にプロパンガスや発電機、調理器具などが備えてあります。日常的にイベントに使う事で非常時の防災に備えながら地域のコミュニティをつくります。

周辺施設の力を借りる

「うみやまもっとあつまれ」とのデジタルワークショップによる連携・ジョイントウェイに模型や最新情報の展示・ポータラザに目安箱の設置など周辺施設の力を活用し町民とコミュニケーションできる場をつくります。



テーマ3 官民連携 設計段階から民間事業者と協働

【EOI方式への姿勢】商業施設を運営する民間事業者の維持管理のノウハウを的確に設計に反映し質の高い利用者サービス・付加価値の高い空間を実現します。根本的な設計内容の変更にも柔軟に対応します。

【コンセッション方式について】公共施設の運営権が民間企業にあるためサービス内容などを自由裁量で設定・変更することが可能になると認識しています。このため運営方法への意見やサービスの提案等を設計チーム側からも数多く提案しよりよい施設を目指します。

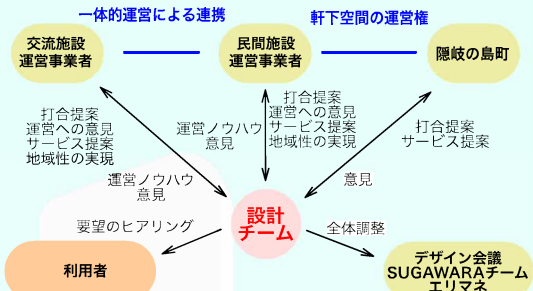
【運営事業者への意見】地域性（コミュニティの醸成、生活利便性、交流人口の拡大、人材育成、移住者増）を踏まえた事業者の運営やサービスになっているかなど利用者を第一に考えた施設となっているか設計チームが確認します。

【窓口の一元化】EOI方式により設計に多くの事業者等が参加することになるため設計に関する全ての窓口を設計チームの統括者に一元化します。様々なフェーズで先導して打合せの機会を設けたり、エリマネと意見の調整や利用者からの意見の吸い上げなど責任を持ってプロジェクトを引っ張っていく役割を果たします。

【軒下空間の運営権】大面積を占める軒下空間の運営権の範囲について設計チーム・民間施設運営事業者・隠岐の島町の3者で協議して大社分院取りも含めたにぎわいの作り方を検討します。

【交流施設との連携】2階の行政機能と1階の民間的機能の一体的運営において、事業効果の向上するための連携方法や空間づくり（動線整備や空間的繋がり）を設計チーム・民間事業者・交流施設事業者3者で相談しながら設計します。

【間取り変更の可変性】耐力壁を建物外周部と中央部に回遊性を残す平面計画によって民間施設運営事業者をはじめとする様々な人々の意見を反映し柔軟に設計できる建築計画としています。



管理運営しやすい建築計画

1階商業施設/軒下広場、2階交流/リーススペースなど、さまざまな活動を個別でも一体でも運営できるように、共用部のタテ動線やトイレを区切って使える計画としています。

将来的な可変性

壁柱による耐力壁を建物外周部と中央部に回遊性を残すように配置します。将来的な間仕切り壁の変更ができることで長く使い続けることができる計画としています。

防災への配慮

災害時や非常時に一時避難所として使える場所にします。

【防災倉庫】浸水しない2階のタテ動線の近くに配置し、施設が空いていない時でも外部から利用できるようにします。フロアパンボンベ発電機、携帯トイレ、非常食など一時的に避難ができるように備えます。

【階段】2つの階段で2方向へ避難できるようにし、指定避難場所の西郷公園へ行きやすいよう複数の出入口を設けます。

【リーススペース】2階レベルの一時避難場所となります。

【軒下広場】水場を設け、吹き出し等の災害活動拠点として設え、フードイベントなど防災設備を日常的に活用します。

バリアフリーの配慮

高齢者、障害者、家族づれ、子供、外国人、初めての利用者、職員などさまざまな人が利用する本施設ではバリアフリーに配慮し、ユニバーサルデザインを基本とします。

【1階出入口】段差をなくし、廊下や階段を十分に確保します。

【動線計画とサイン計画】初めての人の対しても分かりやすい計画とします。

敷地面積：472m²
 建築面積：377.2m²
 建ぺい率：79.9% < 70+10%
 構造規模：木造2F建て（一部鉄骨造）
 延床面積：460m²
 2F面積：230m²（室内155m²）
 1F面積：230m²（室内190m²）

【設備】
 機器やシャフト類はできる限り集約し汎用設備機器を使うことでメンテナンスしやすい計画とします。

配置平面図兼アクセシビリティ図

テーマ4 地産地消・省エネ 省エネルギーに配慮した質実剛健な建築

設備計画は大屋根による自然採光と換気に加え、省エネを促進させる機器選定とすることで、ランニングコストと環境負荷の低減に努める計画とします。

【換気環境】中間期は高天井の高低差を活かし重力換気によって非空調でも快適に過ごすことができます。

【光環境】ハイサイドライトからやわらかい自然光を取り入れ、窓際の照明は昼光制御し節電を図ります。

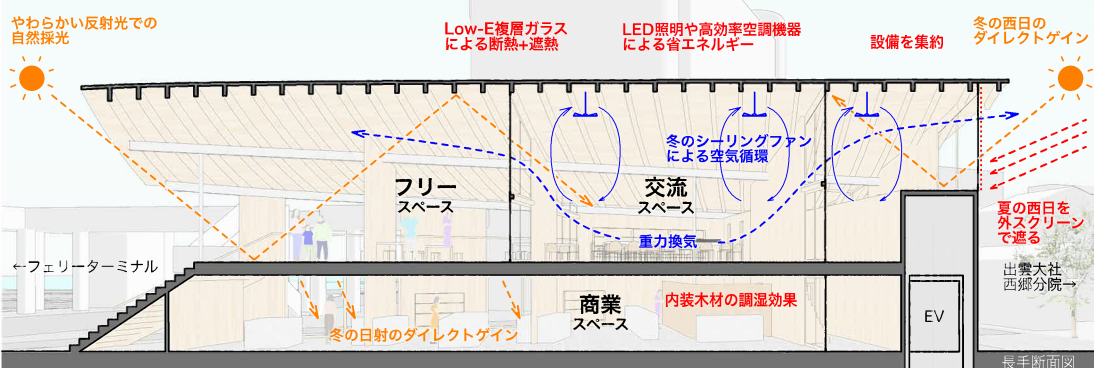
【機械設備】LEDベースライトや高効率空調機器などの高効率機器を採用し環境負荷低減に努めます。

【材料】内装材に木材を多く使用することで、木材の調湿効果を期待できます。耐久性や耐候性の高い建材を使用することで、メンテナンス性に配慮した計画とします。内外装や建具手摺など細部にも木材を活用します。大屋根に守られた木材は年月を経てエイジングし、艶々の仕上げとなります。

高天井を活用した温熱環境

高天井による大きなフトコロを利用して温熱環境をコントロールします。冬季は上部に溜まった熱をシーリングファンで循環させます。夏は溜まった熱を上部の通風窓によって排出します。近年は気候変動により猛暑日が増えています。猛暑日は通風を行わずフトコロに「温度成層」を形成することで熱の蓋をし空調負荷を削減します。

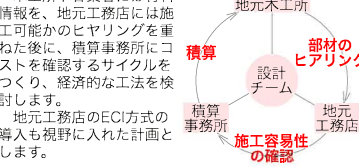
季節ごとの運用例	運用例
冬季	ダイレクトゲイン シーリングファン
中間期	程よいダイレクトゲイン 適風 ロールスクリーン適宜
夏季	庇による日射カット 通風 ロールスクリーン
猛暑	通風窓閉 上部に温度成層をつくる



地元の木材と施工技術の活用

木造2階建の本施設は小径木の製材で可能な構造と工法とし、隠岐の島町で生産されている材料を用いて特殊な技術力を必要としない建築をつくりまします。地産地消を促進したあたたかみや愛着が生まれやすいだけでなく地元工務店の施工によりコストを削減に大きくつながります。

地元会社の力を借りた工法検討体制



コスト削減の工夫

【設計の工夫によるコスト削減】
 ・屋根裏など構造をあらわしにすることで建設コストとメンテナンスコストを削減します。
 ・木材利用（林野庁）、都市再生（国土省）、デジタル（内閣府）などの補助金の活用をします。

【建材選定によるコスト削減】
 ・木材は構造仕上共に流通規格を利用し、地場産の木材を用いることで運搬費を削減します。
 ・仕上の種類を減らし、汎用仕上とします。

【積算によるコスト削減】
 ・構造材、内外装仕上、屋根仕上等のコストを占める項目は設計初期段階で積算と仕様を検討を行います。

【設備計画によるコスト削減】
 ・設備は上下階で位置をまとめる合理的な計画とします。
 ・省エネによりランニングコストの軽減を図ります。

構造計画

建物は基本的に木造とし、水平力は木造壁柱によって確保します。軒下広場を開放的に使うため独立柱と桁梁を鉄骨造とします。

